CASBEE®さいたま2016年版 評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEEさいたま2016年版　I使用評価ソフト：CASBEEさいたま2016ver.2.0

1-1 建物概要

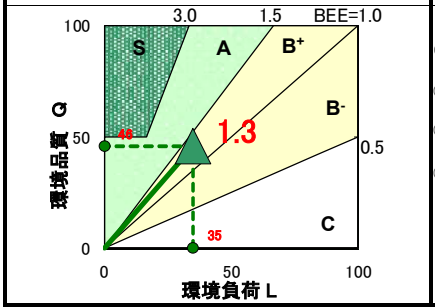
建物名称	(仮称)浦和美園Ⅲ 新築工事	階数	地上13F、地下0F
建設地	さいたま市緑区美園4丁目7番4,5,6	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	436 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,544 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅,	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2028年2月　予定	評価の実施日	2025年10月15日
敷地面積	2,353 ㎡	作成者	
建築面積	849 ㎡	確認日	2025年10月18日
延床面積	8,022 ㎡	確認者	

1-2 外観

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE =1.3

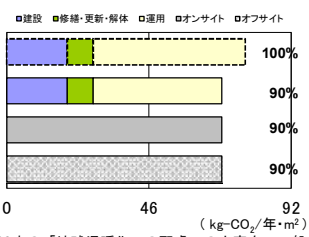
S: ★★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ B-: ★★ C: ★



2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

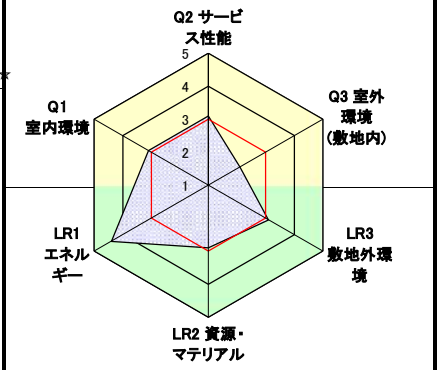
30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆

標準計算



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

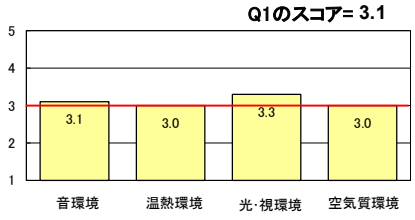
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



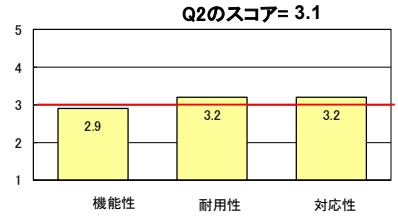
2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質　　Q のスコア= 2.8

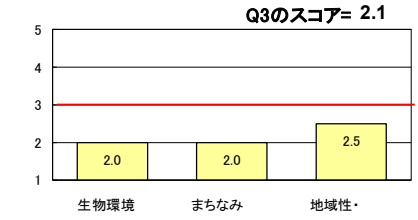
Q1 室内環境



Q2 サービス性能

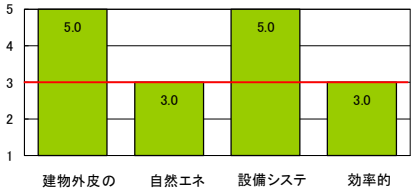


Q3 室外環境（敷地内）

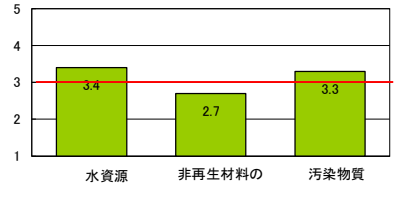


LR 環境負荷低減性　　LR のスコア= 3.6

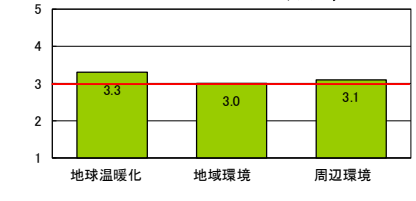
LR1 エネルギー



LR2 資源・マテリアル



LR3 敷地外環境



3 設計上の配慮事項

総合

共同住宅用途の為、室内環境、サービス性能、エネルギー、資源・マテリアル、敷地外環境の全般にわたり配慮した設計とした

その他

特になし

Q1 室内環境

開口部遮音性能 T-2
昼光率 エントランスホール：2.90%、住居：2.10%以上

Q2 サービス性能

外壁タイル貼補修必要間隔：40年
給水管：硬質塩ﾋﾞﾆﾙﾗｲﾆﾝｸﾞ鋼管、排水管：硬質塩化ﾋﾞﾆﾙ管　Eは不使用
階高：2.9m

Q3 室外環境（敷地内）

特になし

LR1 エネルギー

断熱等性能等級：等級5
［BEI］＝0.80

LR2 資源・マテリアル

節水コマ、省水型機器 採用
再利用可能性向上：LGS下地採用
発泡剤：硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ、押出法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ　採用

LR3 敷地外環境

ライフサイクルCO2排出率：90%
駐輪場、適量の駐車ｽﾍﾟｰｽ、荷捌き車両駐車ｽﾍﾟｰｽ確保
光害対策ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝﾁｪｯｸﾘｽﾄの一部を満たしている。広告物照明なし

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Built Environment Efficiency（建築物の環境効率）
■「ライフサイクルCO2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEEさいたま2016年版
(仮称)浦和美園Ⅲ 新築工事

■使用評価マニュアル：CASBEEさいたま2016年版
　欄に数値またはコメントを記入　■評価ソフト：CASBEEさいたま2016ver.2.0

スコアシート　　基本設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						**2.8**
Q1 室内環境			**0.40**		-	**3.1**
1 音環境		**2.0**	0.15	**3.3**	1.00	**3.1**
1.1 室内騒音レベル		**3.0**	0.50	**3.0**	0.50	
1.2 遮音		**1.0**	0.50	**3.6**	0.50	
1 開口部遮音性能	T-2	1.0	1.00	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能		3.0	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20	
1.3 吸音		**3.0**	-	**3.0**	-	
2 温熱環境		**3.0**	0.35	**3.0**	1.00	**3.0**
2.1 室温制御		**3.0**	0.50	**3.0**	1.00	
1 室温		3.0	0.63	-	-	
2 外皮性能		3.0	0.38	3.0	1.00	
3 ゾーン別制御性		3.0	-	-	-	
2.2 湿度制御		**3.0**	0.20	-	-	
2.3 空調方式		3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境		**3.3**	0.25	**3.3**	1.00	**3.3**
3.1 昼光利用		**4.2**	0.30	**4.0**	0.30	
1 昼光率	エントランスホール：2.90%、住居：2.10%以上	5.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口		-	-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策		**3.0**	0.30	**3.0**	0.30	
1 昼光制御		3.0	1.00	**3.0**	1.00	
3.3 照度		**3.0**	0.15	**3.0**	0.15	
3.4 照明制御		**3.0**	0.25	**3.0**	0.25	
4 空気質環境		**3.0**	0.25	**3.0**	1.00	**3.0**
4.1 発生源対策		**3.0**	0.60	**3.0**	0.63	
1 化学汚染物質		3.0	1.00	3.0	1.00	
4.2 換気		**3.0**	0.40	**3.0**	0.38	
1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能		3.0	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理		-	-	-	-	
1 CO_2の監視		3.0	-	-	-	
2 喫煙の制御		3.0	-	-	-	
Q2 サービス性能		—	**0.30**	-	-	**3.1**
1 機能性		**2.8**	0.40	**3.0**	1.00	**2.9**
1.1 機能性・使いやすさ		**3.0**	0.40	**3.0**	0.60	
1 広さ・収納性		3.0	-	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応		-	-	3.0	1.00	
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		**3.0**	0.30	**3.0**	0.40	
1 広さ感・景観		-	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	
3 内装計画		3.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理		**2.5**	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		2.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性		**3.2**	0.30	-	-	**3.2**
2.1 耐震・免震・制震・制振		**3.0**	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		**3.8**	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	外壁タイル貼：40年	5.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水管:硬質塩ﾋﾞﾆﾙﾗｲﾆﾝｸﾞ鋼管、排水管:硬質塩化ﾋﾞﾆﾙ管　Eは不使用	5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		**3.0**	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
3 電気設備		3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.0	0.30	3.3	1.00	3.2
3.1 空間のゆとり			-	-	3.6	0.50	
	1	階高のゆとり	階高：2.9m	-	-	4.0	0.60
	2	空間の形状・自由さ		-	-	3.0	0.40
3.2 荷重のゆとり				-	-	3.0	0.50
3.3 設備の更新性				3.0	1.00	-	-
	1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-
	2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-
	3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-
	4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-
	5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-
Q3 室外環境（敷地内）				–	0.30	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出				2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮				2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上				2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-		-	3.6
LR1 エネルギー				–	0.40	-	-	4.4
1 建物外皮の熱負荷抑制			断熱等性能等級：等級5	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEIm] = 0.80	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用				3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				-	-	-	-	
	4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
	4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
集合住宅の評価				3.0	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル				–	0.30	-	-	2.9
1 水資源保護				3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水			節水コマ、省水型機器 採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無		-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				2.7	0.60	-	-	2.7
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			–	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			–	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			LGS下地採用	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.5	0.70	-	-	
	1	消火剤		-	-	-	-	
	2	発泡剤（断熱材等）	硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ、押出法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ 採用	4.0	0.50	-	-	
	3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				–	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮			ライフサイクルCO2排出率：90%	3.3	0.33	-	-	3.3
2 地域環境への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.2	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制	駐輪場、適量の駐車ｽﾍﾟｰｽ、荷捌き車両駐車ｽﾍﾟｰｽ確保	4.0	0.25	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
	1	騒音		3.0	1.00	-	-	
	2	振動		-	-	-	-	
	3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				3.0	0.40	-	-	
	1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制		-	-	-		
	3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				3.7	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝﾁｪｯｸﾘｽﾄの一部を満たしている。広告物照明なし	4.0	0.70	-	-	
	2	昼光の建物外壁による反射光（グレア）への対策		3.0	0.30	-	-	